

海部沿岸での藻場造成(海藻養殖)のアイデア

環境増養殖担当 團 昭紀

Key word ;モズク, アラメ, カジメ, ワカメ, ヒロメ, 養殖, 増殖, 養殖イカダ

写真は養殖されたフトモズクです。モズクは、最近の健康食ブームで需要が高まっており、今後の養殖種としては期待が持てるものです。ここに出ている写真のモズクは、北泊漁協と水産試験場が共同で平成 11 年 3 月から 5 月まで養殖試験を行ったものです。徳島県沿岸でフトモズクの養殖が成功したのは、これが初めてだと思います。北泊漁協の Y さんがモズクの母藻を持ち込んで、養殖試験を開始してから 3 年目となりました。種の培養、養殖網への採苗の技術は、それまでのワカメ培養の技術がありましたので比較的、容易に行きましたが、海に出してからは Y さんの努力と工夫があったからこそ 3 年目にしてここまで出来たのだと思います



写真1 養殖されたフトモズク

突然、話が飛んで恐縮なのですが、私は今春、長年居ました鳴門分場から日和佐の本場に転勤しました。今まで上記の内容のような養殖主体の研究ばかりやっていたので、採取漁業主体の地域へ変わり、どのように研究を行えばよいのかとまどっております。私は、貝とか海老ですとか今まで扱ったことも無く、即戦力になるわけには行きませんが、海部郡沿岸においても、アラメ、カジメ藻場の減少が問題になっているとのことで、海藻の話になると何とかなるのではないかと考えました。しかし、藻場造成といっても、私はアマモ場の造成程度しかやったことはなく、アラメ、カジメ場造成は経験が少ないのです。また、藻場造成は、単純に害敵駆除とスポアバックを入れるだけで成功するほど簡単なことではないのは知っているつもりです。そこで、「海部沿岸で海藻養殖イカダを設置する」ことを提案したいと思います。しかし、現実を良く知っておられる方に言わせると空想、妄想に近いような話だと思われそうですが、一つのアイデアだと思って読んでください。

養殖イカダは、播磨灘や紀伊水道でワカメ養殖を行っている経費のそれほどかからないものを考えてください。何億円もの経費の要る頑丈なもの、この目的に合いません。例えば、5 年間壊れない施設として設計すると、大変な施設となりますが、数ヶ月から 1 年持てば良いというものになれば安くなるのではないのでしょうか。そして、海藻を養殖するという事は、海を汚しません。逆に、環境浄化に役立ちます。ちぎれた海藻片は、海底を漂い寄り藻となり貝や海老の餌となります。つまり、藻場と同じ機能を果たすのではないのでしょうか。しかし、これだけだと、この養殖イカダを維持するための経費が出てこないのです、養殖という要素を付け加えて、有用な海藻、食用海藻、例え

ば「ワカメ」、「ヒロメ」、「コンブ」、「モズク」などを栽培して収穫し換金すれば一石二鳥となるのではないのでしょうか。

「藻が小型定置網に入って邪魔だ」、「藻が刺し網にかかって漁にならん」、「海が汚れる」などという声が聞こえてきそうですが、一つのアイデアとして受け取っていただければ良いかと思います。海部郡の漁師さんで、海藻養殖に興味がある人がもしおられましたら、ご連絡ください。増殖科の「増殖」という文字にこだわらず、養殖も含んだ「増養殖」という意味で仕事をして行きたいと考えております。